

Pain is inevitable Suffering is optional

2 弥生

弥生文化の成立 (B.C.4世紀頃～A.D.3世紀頃) P15～17

論点

- ① **水稲耕作**：食料生産経済への動きが本格化していた。獲るだけでなく作るだな！九州北部の佐賀県 **菜畑** 遺跡、福岡県 **板付** 遺跡等で縄文時代晩期の**水稲耕作**が確認されている。頻出だよ！水稲耕作は雲南・アッサム（インド）→長江下流域→山東半島付近→朝鮮半島西岸→九州北部と伝わったといわれている。弥生文化の名はこの様式の土器が東京の本郷弥生町にある **向ヶ丘** 貝塚にちなんでいる。**水稲耕作の範囲**は、青森県 **砂沢** 遺跡や **垂柳** 遺跡で水田跡が発見され、本州最北端まで弥生時代に水稲耕作が広まっていたことが確認されている。並行して **狩猟・漁労も盛んだった** ことも念頭におくこと。

弥生文化の例外

北海道：**続縄文文化**

7世紀以降は擦文土器をとまなう **擦文文化** や **オホーツク文化** が成立(狩猟・漁労)

沖縄：**貝塚文化** (食料採取文化) 2015年センター出題とまどった受験生多し。

擦文が新奇だったらしい。

弥生土器

弥生土器は高温で焼かれ **赤褐色で薄手で硬い** だ。**壺** (貯蔵用)・**甕** (煮炊き用)・**高杯** (盛りつけ用)と、種類も豊富になった。

② 弥生人の生活

- ① 農具：磨製石器で制作した **木製農具** → **鉄製** 農具の普及へ

(a) **木製農具** (木鋤・木鋤・**田下駄** など)の使用

(b)鉄製工具・木製農具の製作 木臼・堅杵

(c) **石包丁** (稲穂をつむ磨製石器)で **穂首刈り** と鉄鎌を用いた根刈り

(d)脱穀→木臼・堅杵が用いられる

(e)貯蔵→ **高床倉庫** や貯蔵穴に貯蔵→登呂遺跡 (静岡県)

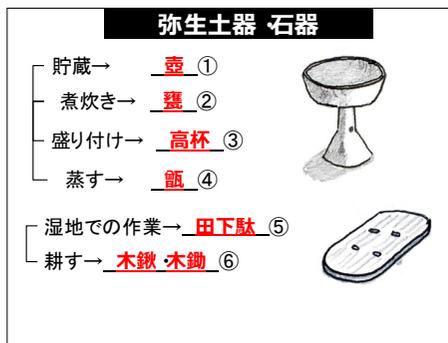
(f)水田：生産性の低い**湿田**→灌漑施設が必要だが生産性の高い

乾田 を開発

- ② **環濠集落** …住居群を濠や土塁で囲む **吉野ヶ里** 遺跡 (佐賀県) が代表的遺跡。二重の環濠、望楼など P20



その他、**唐古・鍵** 遺跡 (奈良県) では **サヌカイト** 製の石鋸が出土。**池上曾根** 遺跡 (大阪府) 方形周溝墓



群がある **大塚** 遺跡 (神奈川県・左の写真) **夜臼式土器** が出土した **板付** 遺跡 (静岡県)

③ **高地性集落** …軍事機能を持つ

紫雲出山 遺跡 (香川県) が出題

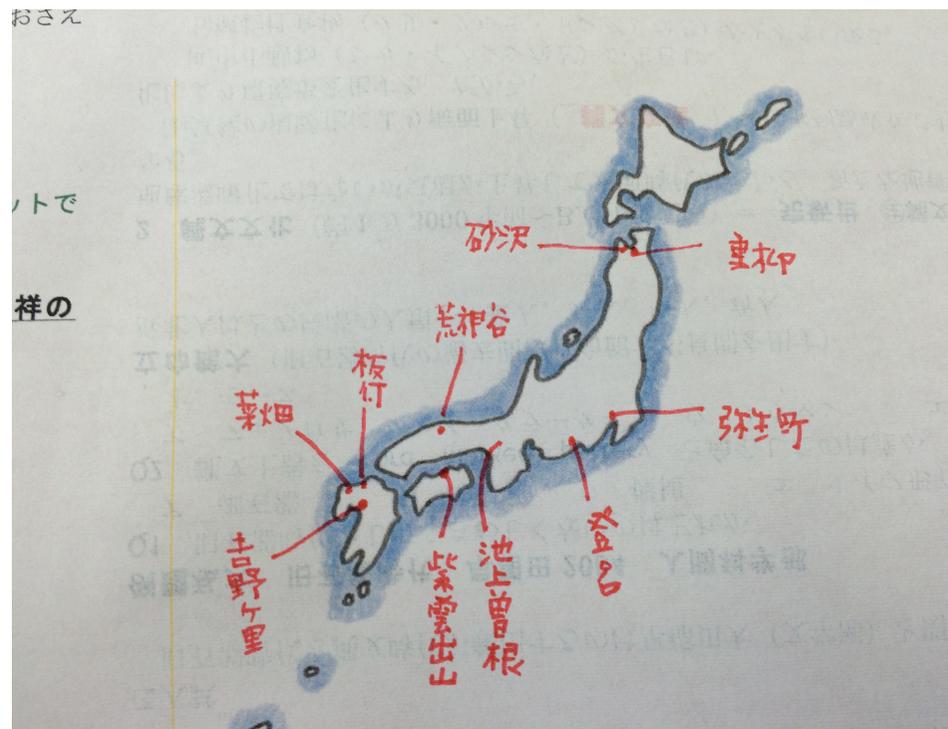
④ **壘棺墓** …朝鮮系の **支石墓** (九州北部中心) 副葬品に関して、青銅製の中国鏡 30 数面や青銅器の武器が出土した壘棺墓のある **須玖岡本** 遺跡 (福岡県) 頻出。

⑤ **方形周溝墓** …方形の低い墳丘の周りに溝をめぐる

弥生後期：大型の墳丘墓や多量の副葬品をもつ墓の出現は、**集団の中に身分差が現われ、各地に強力な支配者が出現** したことを示す。

⑥ **墳丘墓** … **楯築** 墳丘墓 (岡山県)

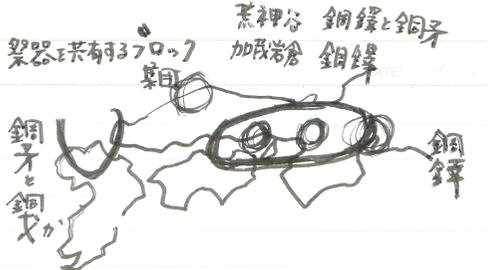
⑦ 弥生の遺跡



③金属器の伝来

① 鉄器 →実用品・農具・武器として普及

② 青銅器は 祭器 である。豊かな収穫を祈願し収穫を感謝する祭りがとりおこなわれ、そこで用いられた。



近畿→ 銅鐸

瀬戸内海中部→平形銅劍

九州北部→ 銅矛 ・ 銅戈

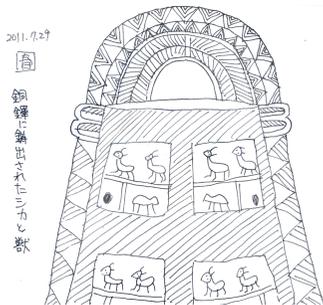
加茂岩倉遺跡（島根）39個の銅鐸、荒神谷遺跡（島根）銅劍358本、銅鐸6本、と銅矛16本が出土。出雲地域は畿内の銅鐸と北部九州の銅矛という二種の祭器を持つ勢力からの友好の誘いかけを受け、両者を睨みながらキャス

ティングボードを握る力を持っていたのだ。邪馬台国誕生前夜の政治的緊張が高まっていたといえよう。

弥生時代初期からあった争い

初期は地理的に近い範囲の争いであったが、中期になると百余国に分かれて争いがあった。手がかりは、弥生時代には祭りの道具として、象徴化された武器や楽器が使われますが、北部九州では、銅矛と銅戈、瀬戸内海東部沿岸では平形銅劍、畿内と東海では銅鐸、出雲地方では中細形銅劍が祭器として使用されました。祭器は実用ではなく、戦いを象徴するものであり、果敢な戦いによって領地を拡大してくれた先祖や英雄をたたえ、集団の繁栄を祈願する呪具と考えられる。

『古代国家はいつ成立したか』都出比呂志著 岩波新書 25



銅鐸 42 古根春香

加茂岩倉遺跡（島根）39個の銅鐸、荒神谷遺跡（島根）銅劍358本、銅鐸6本、と銅矛16本が出土。出雲地域は畿内の銅鐸と北部九州の銅矛という二種の祭器を持つ勢力からの友好の誘いかけを受け、両者を睨みながらキャスティングボードを握る力を持っていたのだ。邪馬台国誕生前夜の政治的緊張が高まっていたといえよう。

㊦卑弥呼登場前夜の争い

「魏志倭人伝」は弥生時代中期からの状況を記述していますが、実は弥生時代は、「魏志倭人伝」に記録される前の弥生時代前期から、戦いが始まっていたことが考古学研究によって明らかになってきました。紫雲出山遺跡の石鏃（香川）→大型化。

㊦論述研究 2009年度 筑波大 その1

【I】縄文時代から古墳時代に及ぶ社会の変化について、次のア～エの語句を用いて、400字以内で論述せよ。解答文中、これらの語句には下線を付せ。ただし、語句使用の順序は自由とする。

- ア 前方後円墳
- イ 屈葬
- ウ 群集墳
- エ 伸展葬

指定されている語句は、すべて埋葬形態であるが、あくまで問われているのは**社会の変化**である。墓制の説明ではない。墓制から読み取れる社会の様子を記さなければならない。これは教科書のそれぞれの語句の周囲の記述をまとめれば書ける。

逆に書きたいことがたくさんあって400字に削る方が難しいのではないかな。

<野澤先生の解答例>

縄文時代にはアニミズムが信じられ、屈葬が行われた。副葬品はなく、採集経済であり身分や貧富の差はなかった。弥生時代になると甕棺などに伸展葬されるようになる。副葬品から農耕社会の成立とともに階級が生じたと考えられる。蓄積された富を巡って戦いが始まり、環濠集落等が形成され、各地にクニとよばれる政治的なまとまりが分立した。3世紀になると前方後円墳が作られるようになる。これは各地の首長たちの共通の墓制として作りだされたもので、古墳の出現に先立ち広域の政治連合が形成されていたと考えられる。5世紀になると前方後円墳は巨大化し全国に築かれ、ヤマト政権の支配領域が東日本へも拡大したことがわかる。副葬品から首長の性格が、司祭者的から武人的に変化したことがうかがえる。6世紀になると有力農民によって群集墳が築かれるようになる。これは政権が、新たに台頭してきた有力農民層を、直接支配下におこうとしたためと考えられる。（400字）